

空港工事の技術資格に関する一考察

平成25年 9月5日

(一財)港湾空港総合技術センター 島田 伊浩

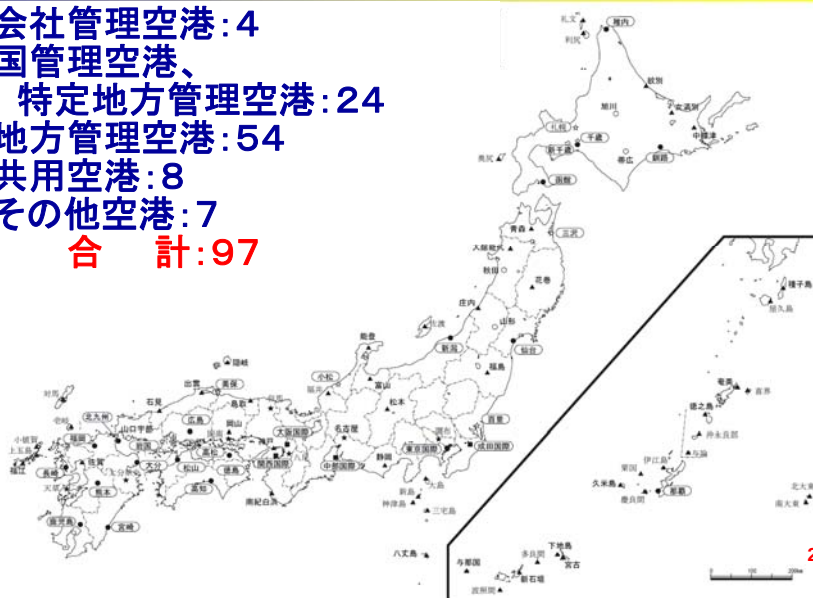
本日の構成

1. 資格の目的
2. 資格の位置付け
3. 資格者の分析
4. 技術の伝承
5. 優位性の検証
6. 資格の考察

1-1. 空港の分布



会社管理空港: 4
 国管理空港、
 特定地方管理空港: 24
 地方管理空港: 54
 共用空港: 8
 その他空港: 7
合 計: 97



1-2. 資格の目的



空港工事は、航空機の安全な運航への影響があり、ひとたび事故等が発生した場合の社会的損失に関するリスクも極めて大きいため、十分な経験と専門知識のもとに工事を進める必要がある。



空港のエキスパートが必要

3

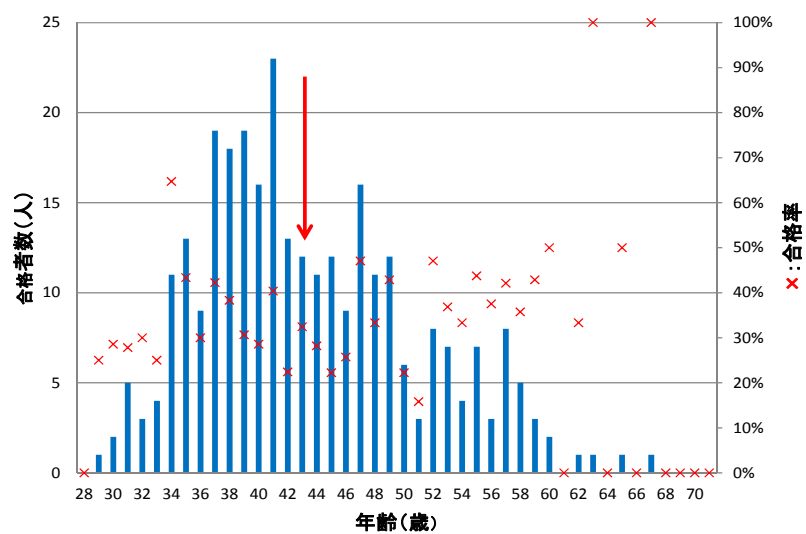
2.資格の位置付け



- ライセンスではなくクオリフィケーション
 - ライセンス: 医師免許、施工管理技士
 - クオリフィケーション: TOEIC、英検
- 専門性の高い分野に特化すること
- 継続学習で教育していくこと

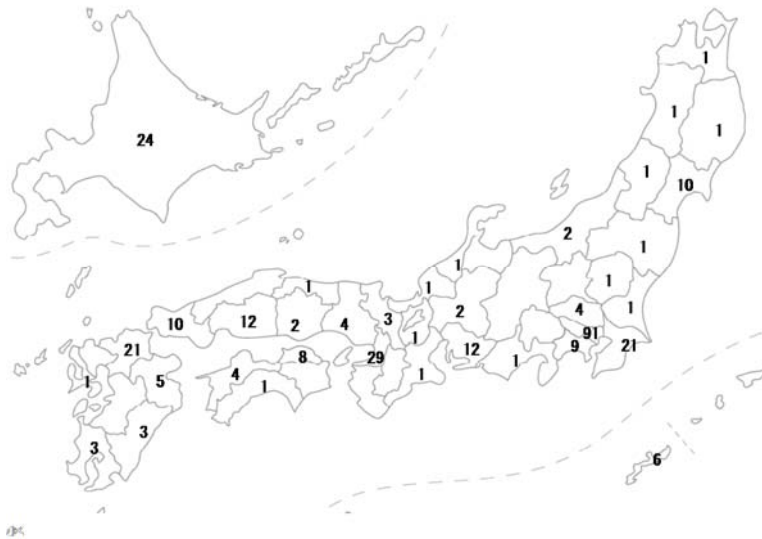
4

3-1.資格者の年齢構成



5

3-2.資格者の県別人数



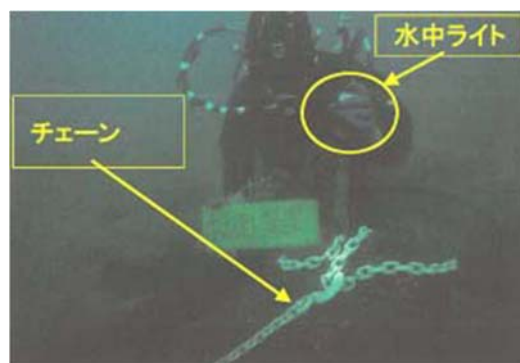
6

4.技術の伝承



施工報告書

新規性や学術的内容やオリジナリティを求めない。

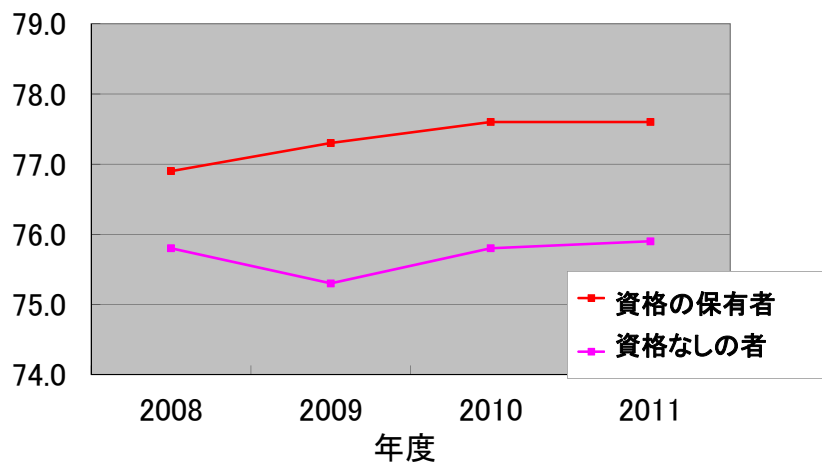


7

5-1. 優位性の検証



工事成績点



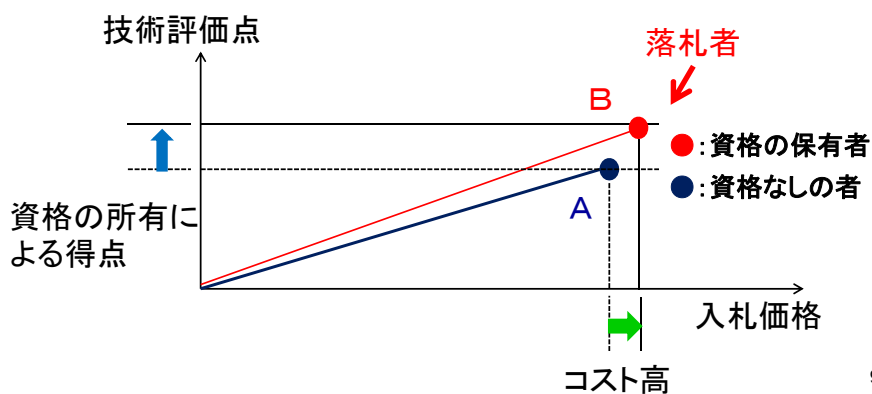
8

5-2. 資格の活用



総合評価落札方式

$$\text{評価値} = \frac{\text{技術評価点}}{\text{価格}}$$



9

6.資格の考察



① 工事量の減少

工事量が減少する中で、専門分野の技術力の維持について、対応していく必要がある。

② 資格の評価

この資格が必要であるという意義を認識してもらう必要がある。

③ 技術の伝承

報告書のデータベース化等により、利用者の支援を後押しする全体システム構築が必要となる。

10

ご清聴ありがとうございました。

